

三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



三船病院デイケアの現在と今後の展望

当院のデイケア、デイナイトケアは日中の居場所、対人交流の場、生活スキルの向上の場などの利用目的はありましたが、活動内容もマンネリ化しており、利用者さんも参加目的を見失っているような状況で、ここ数年は参加者数も減少傾向にありました。このような状況を変えるべく、利用者の皆さんそれぞれが自分自身の目標を見出し、生き活きと楽しんで活動できるデイケアにしたい、個別のニーズに応えられるデイケアにしたい、また私たちスタッフ自身も心から活動を楽しみながら生き活きと利用者の皆さんの地域生活を支えることのできるデイケアを目指したいという強い思いから、現在、**サクラ(Success of life)**、**フラネ(Fly to next)**、**ステラ(Stable life)**の3つの場所で、対象者、機能、役割を分け、それぞれの利用目的やニーズに沿った活動と支援を行っています。このようにデイケアの内容を充実させ、個々のニーズに合った支援を提供することで、利用者の皆さんの地域での生活はより充実し安定したものになっていきます。そして今のデイケアのことを知っていただくことで、より多くの方に三船病院デイケアを利用していただきたいと思っています。参加者が増え色々な人と交流できるようになると、デイケア内の集団力動もより有効的に働き、社会性や凝集性が高まることで、デイケア自体がさらに活性化することが期待され、利用者の皆さんにとってもたくさんの仲間と一緒に安心して過ごせる場所であると同時に自身の目標や希望を見出し生活を充実させる場として利用していただけたらと考えています。三船病院デイケアを活発に発展させ外来医療、地域医療、福祉にも貢献していきたいという思いで、**新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」**というものを立ち上げ、参加者数を増やしていこうとしています。今三船病院デイケアは従来のイメージから脱却し、成長しようとしています。以下に今の三船病院デイケアを知っていただくために、三船病院デイケアの新しい形、新しい動きについてご紹介しますので、是非お読み下さい。

サクラ(Success of life) フラネ(Fly to next)

ステラ(Stable life)

現在デイケアは新館2階で分けて行っているサクラ(Success of life)とフラネ(Fly to next)、そして中央館1

デイケア室 課長 國宗 聖子

階のステラ(Stable life)の3ヶ所でそれぞれ違った目的で機能を分けて実施しています。

利用者、スタッフ共に目標を持って活動に取り組み、その活動が、利用者の目標を達成するために有効となるよう取り入れた「目標プログラム」を元に、健康の維持、活動や人の交流を通して日常生活の維持、向上を目指すグループが**サクラ**です。月～金の週5日開催しています。

同じく「目標プログラム」を元に、一般就労や福祉就労等次のステップを目指して、仕事に就くための生活の見直しや働き続けるための知識と経験の習得、基礎的な体力作り等を行っているのが**フラネ**です。月～水の週3日で開催しています。

心の安定を第一に考え日々を穏やかに楽しく過ごし、地域での生活を1日でも長く維持していくことを目的として行っているのが**ステラ**です。従来デイナイトケアとしていましたが、現在はデイナイトの時間帯のみではなく、デイケアの時間帯で参加することもできます。月～金の週5日開催しています。

デイケアの時間帯での利用者を対象に無料で送迎も行っております。

現在はこのように**サクラ**、**フラネ**、**ステラ**という3つのグループに分けて呼んでいること、それぞれが目的に合わせて機能していることを知っていただきたいと思えます。

新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」

次に知っていただきたいのが、**新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」**の活動についてです。

デイケアを活性化させ利用さんにとってのメリットを拡大させるため、デイケアの参加者数を増やしていくというのですが、闇雲に数を増やすということではありません。サクラ、フラネ、ステラに分かれたそれぞれの利用者さんは、各々の目標や利用目的のもとデイケアに参加し、日々の活動を行っています。スタッフも個々のニーズや利用目的に沿った支援を行っています。きちんと利用目的に沿った活動と支援を行い、目標が達成し次のステップに移行すれば、参加者数は減ってしまいますが、その数よりも新規参加者の数を増やすことで全体の参加者数も増やしていく、そしてまた

その新規参加者の方が目標を達成し次のステップに進んでいけるよう支援し送り出していくという一連の流れと仕組みを作り、定着発展させていこうというのが新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」です。2019年の11月より活動をスタートし、主なメンバーは、デイケアの新規参加者窓口担当、救急病棟担当精神保健福祉士・作業療法士、医療相談室精神保健福祉士、作業療法課作業療法士で構成されています。2~3ヶ月に1度集まり、各々の部署、職種の枠や壁を超え、病院全体でデイケアの新規参加者を開拓し増やしていくにはどうしたらいいのか、具体的に何をしていけばいいのかを検討し、実行していくというプロジェクト会議を行っています。このプロジェクト会議では、部署、職種を越えた多職種での連携を強化し、デイケアに参加する可能性のある方の掘り起こしに力を入れてきました。これまでは適応しにくかった、または受け入れにくかった利用者の方も幅広く受け入れ、見学、体験参加、新規参加に結びつけることができるようになりました。また週1回デイケアの新規窓口担当者が救急病棟に出向き、救急病棟の精神保健福祉士と新規参加の可能性のある方についての情報交換、情報共有をすることによって、より速くスムーズに対応ができる体制作りと連携を行っています。

また他部署の職員にも今のデイケアを知ってもらい新規の方を紹介してもらうため、職員を対象とした見学説明会も実施し、今後も看護部門を対象に行う予定です。新型コロナウイルス感染状況が落ち着けば、法人外での広報活動も行いたいと考えています。

今後の展望

現在コロナ禍のため、なかなか思うように新規参加者の増加が見込めず、やきもきする日々ですが、一進一退ありながらも少しずつ見学、体験参加者、新規参加者が増えつつあり、「Newデイ's」の成果を感じ

ているところです。利用者さん達も活動が制限される中ではありますが、色々な活動に楽しんで参加し、自身の目標を意識しながら日々取り組んでおられます。

今後も新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」から様々なアイデアや意見を出し合い、それを実際に行っていくこと、またこれまで以上に情報交換、情報共有、意見交換を密にしなが、他部署、他機関との連携を強化し、病院全体で新規参加者を増やしていくという一連の流れを絶やすことなく継続させていきたいと考えています。また「Newデイ's」の活動を推し進めると同時に、デイケアの中でも、利用者さんにとってより魅力的で利用しやすいデイケアを目指して、活動内容や支援の方法にも工夫を凝らしていきたいと思っています。送迎や利用方法についても、個々の利用者の希望やニーズに合わせて対応できるように検討しています。参加者数が増えデイケアが元気になることで、デイケアを利用する皆さんにとってのメリットをさらに拡充し三船病院の発展にも貢献していきたいと考えています。

まずは、より多くの方に今の三船病院デイケアを知っていただくことからはじめ、デイケアスタッフ、病院が1つになって、より多くの利用者の方が、安心、安定、充実した地域での生活が送れるよう活動、支援していきたいと考えておりますので、今後も皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。



新規参加者開拓プロジェクト「Newデイ's」の様子

★思春期の問題でお困りの方へ

思春期を迎えると、身体の急速な発育や心の発達と同時に、子供の世界は家庭から学校、地域社会へと広がり人間関係も変化します。心身共に揺らぎやすく、子供だけでなくその家族にとってもさまざまな影響をもたらします。

こんな症状はありませんか？

- ・不登校や引きこもり、集団に馴染めず悩んでいる
- ・眠れない、朝起きられないなど生活リズムや睡眠のことで困っている
- ・対人恐怖が強い、友達とうまくコミュニケーションがとれない
- ・家庭内での暴力などの問題行動
- ・拒食や過食など食事のコントロールができなくなった
- ・「死にたい」と言うことや自分の体を傷つける行為がある
- ・思春期の深刻な心理的問題など



このような症状がみられたり、学校やご家庭での心配ごとがある方はご相談ください。

三船病院医師からのメッセージ・・・



「眠りに関わるアミノ酸について」

三船病院 医師 石川 真悠子

初めまして。今年の4月から診療させて頂いている石川です。どうぞよろしくお願ひします。今回は眠りに関わる「トリプトファン」、「グリシン」に関して解説したいと思います。まずはそれぞれの生体内での働きを説明します。

トリプトファンは、必須アミノ酸で乳製品、青魚などに多く含まれ、ニコチン酸、セロトニンなど生体内物質の材料となります。グリシンは、非必須アミノ酸で肉類、魚介類に多く含まれコラーゲンや赤血球など生体内物質の材料となります。また、グリシン受容体および NMDA 受容体に作用する神経伝達物質として働きます。

このような生体内で異なる働きを持つアミノ酸は、「眠りに関する作用」を持つのではと考えられています。まず、トリプトファンは脳内でセロトニンとなります。セロトニンは自律神経の調整を活性化し鎮静、催眠、精神安定作用を持ちます。さらにセロトニンは脳の松果体でメラトニンになり、このメラトニンは睡眠リズムの調整作用を持ちます。つまり、トリプトファンは眠りに関わるこの2つのホルモンの材料であることから眠りを改善する作用があると考えられています。

次にグリシンですが、脳内で NMDA 受容体に結合します。その作用に関し、味の素(株)による興味深い研究があります。その研究ではグリシンの経口摂取により脳中グリシン濃度が上昇し NMDA 受容体を介して深部体温低下が認められました。深部体温は低下するほど眠りやすいことが知られています。つまり、グリシンは深部体温を低下させ寝つきをよくする作用があると結論づけられます。

睡眠に関するお悩みのある方は、まずは食事に対策することもできるかもしれませんね。



三船病院 委員会活動紹介

—医療安全管理委員会—



医療安全管理委員会 書記 看護副部長 川田 知子

毎月第2水曜日に開催されている医療安全管理委員会は、院内における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために活動しています。また、医療事故防止対策を実効あるものにするために、毎月第4金曜日に、看護部リスクマネジメント部会を開催しています。

そこで今回は、看護部リスクマネジメント部会の活動について紹介します。構成員は看護部長、看護副部長、病棟看護師長の9名です。活動内容は、①ヒヤリハット事例・事故報告事例の検討、②具体的な事故防止策の立案および実施とマニュアルの作成、③実施した事故防止活動の検討および評価、④看護職員に対する現場での医療安全教育、⑤事故事例の共有や啓発活動等です。

現在、部会で検討課題となっているのが、年々増加傾

向にある転倒事故です。事故の要因は、高齢や運動不足による下肢筋力の低下や、抗精神病薬による錐体外路症状としての小刻み歩行など患者様の身体機能によるもの(内的要因)と、病室の状況など、患者様の療養環境によるもの(外的要因)に分けられます。そこで、理学療法士や作業療法士による身体機能を高める訓練や危険因子を除去し安全な環境を整えることなど、様々な転倒予防策を講じていますが、事故がゼロになることは難しい現状です。しかし「転ばぬ先の杖」が患者様の行動抑制やQOL(生活の質)の低下にならないことを念頭に置き、日々の看護ケアにおいて看護師一人一人がリスク感性を高めることができるように検討を重ねています。

今後も、患者様に安心・安全な医療を提供できるように、職員一丸となってより一層努力していきたいと思ひます。



介護老人保健施設 福寿荘

—通所リハビリテーションでの新型コロナウイルスの感染予防対策について—

介護福祉士 新開 亜紀

通所リハビリテーションでは、新型コロナウイルスによって重症化しやすい高齢者の利用者様や基礎疾患がある方が多数利用されています。そのため、ウイルスを持ち込まない拡げないことに留意して感染予防対策をしています。

職員は出勤時に検温をし、利用者様にも朝自宅での検温、体調確認の実施などお願いしています。施設にきてからも再度検温をさせていただいています。体温 37.5 度以上の方や体調のすぐれない方には利用の自粛をしていただいております。

また、施設に入る前や食事の時間など、その都度の手洗いや手指消毒を実施しています。利用者様にはマスク着用のご協力をお願いしています。認知症の方や疾患によって着用が難しい方もいらっしゃいますが、なるべく着用していただけるよう声掛けをしています。

密室空間を避け外気を取り込むため、フロアの窓を開ける等、定期的な換気を心がけているほか、密にならないようデイルームの席の間隔を開けています。またレクリエーションでも利用者様同士が離れて作品制作や脳トレプリント、体操などに取り組んでいます。

さらに施設内のトイレや手すり、ドアノブ、利用者様の車椅子、歩行器、椅子、送迎車内の消毒も実施しています。

このように利用者様や家族様のご理解と多くのご協力をさせていただいております。利用されている皆様の安全・安心のため、これからも気を引き締めて感染対策を徹底してまいります。



三愛会コミュニティセンター

—現状と今後の展望について—

多機能型事業所ワークサポートセンター三愛

就労継続支援 B 型事業さんあい 社会福祉士 大池 直子

さんあいは、平成 26 年 4 月に現在の建物に移転しました。就労継続支援 B 型事業とは、障害や難病のため、一般企業で働くことが困難な方へ適切なサポートを行いながら作業を中心とした働く機会を提供する福祉サービスです。併せて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援も行います。定員 25 名で現在登録者は 43 名、1 日約 20 名前後の方が通所しています。

作業内容としては、施設内で行う軽作業(子ども服の糸切り、換気扇フィルターの折り・袋入れ等の作業、ゴミ袋の枚数数え等)の他、色々な施設外就労(利用者スタッフが現場や企業へ移動して行う作業)にも取り組んでいます。病院内の清掃作業、食器洗浄作業、農作業に加え、今年度からは運輸会社にてメール便の仕分け作業も始めました。利用者それぞれが得意な分野を活かして作業に参加しています。様々な経験を通して自己理解を深めていけるように個別相談も行っています。

今後の B 型事業所として、まずは工賃アップを目指し新しい内職作業や施設外就労を取り入れて行くこと、さらには就職希望者の支援が求められています。また、企業から請け負った作業を責任持つて行うことと、福祉サービスの観点から利用者の生活支援に取り組むことの両立も必要となります。

コロナ禍の今、通所したくても感染が怖くてなかなか外に出られないという声もあるので、そのような利用者の声にも対応できるよう、これからはネット環境を使った時代に合わせた支援も検討して行く必要を感じています。



《編集後記》

やわらかな初夏の日差しが心地よい今日このごろ、みなさまいかがお過ごしでしょうか。三船病院では 5 月 21 日医療法人社団三愛会の役員会で、三船義博医師が新院長に就任いたしました。体制新たに参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
(三船病院相談室 PSW)